

令和 7 年度 事業報告書

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 チョウタリイの会

1 事業の成果

● 途上国における教育環境の改善を図るための校舎建設等の協力事業

■ ネパールの公立学校における E-ライブラリ開設プロジェクト

当法人では 2010 年より「ネパールにおける公立学校新校舎等建設支援プロジェクト」を行なっています。当期では、当プロジェクトの 34 校、35 校目としてカブレパランチョーク郡バネパ市 3 区のナンダ・デビ・ベーシック学校、バネパ市 10 区のジャナ・ジョティ・セカンダリ学校の 2 校の E-ライブラリが完成しました。



完成したナンダ・デビ・ベーシック学校 E-ライブラリ



完成したジャナ・ジョティ・セカンダリ学校 E-ライブラリ



【「E-ライブラリ」開設の成果】

E-ライブラリとは、デジタルツールを整備したコミュニティ図書館のことです。生徒、教師の他に地域の人々も利用でき、読書はもちろん 8 台のデスクトップコンピュータによりインターネットを通じて多くの知識を得ることができます。

ネパールの山間地域のほとんどの公立学校では 1 台のコンピュータをも保有していない状況となっています。また、図書室もなく子どもたちは、満足に読書をすることもできない環境におかれています。

他国の学校では、1 人に 1 台のタブレット端末を使用した教育が行なわれ始めている中で、ネパールの山間地域の公立学校では、情報通信における教育環境が他国と比べてとても遅れた状況となっています。

この状況のままでは、デジタルネイティブ世代であるはずの子どもたちが、デジタル格差となって取り残され、未来の可能性が限られたものになってしまいます。

当法人が行ったネパールにおける E-ライブラリ開設支援は、今回を含め 10 校の公立学校で完成し開館しています。開館した学校からは、画期的な支援と評され、生徒、教師、地域の人々からもとても喜ばれて

います。当地の行政機関（市役所）においても、当プロジェクトを参考にコミュニティ図書館としてのE-ライブラリの建設を行う計画が動きが始まっています。

また、当該支援地域及びその周辺地域においても、教育の重要性についての認識が高まっておりE-ライブラリの開設支援を要望する学校が増えています。

当法人では、子どもたちに読書ができる環境とコンピュータで多様な知識を得ることができる環境を作ることによって、子どもたちに心が豊かで平和な社会を築く担い手となる人材へと育ててもらいたいと思います。

【支援の概要】

E-ライブラリ開設支援プロジェクトでは、各校において以下の支援を行ないました。

- ① E-ライブラリの建設
- ② 本棚、テーブル、椅子などの家具の提供
- ③ 図書の提供
- ④ デスクトップコンピュータ 8 台と関連機器の提供
- ⑤ ネット回線などの環境整備

【新規のプロジェクト】

当法人では、当期において下記の公立学校 2 校にE-ライブラリ開設プロジェクトを開始しました。

バグマティ・ベーシック学校（ラリトプル郡バクマティ村 2 区）

カリ・デビ・セカンダリ学校（ラリトプル郡バクマティ村 2 区）

カリ・デビ・セカンダリ学校は、2019 年に当法人が新校舎建設支援を行った学校です。

当時のカリ・デビ・セカンダリ学校は、2015 年に起きたネパール大地震のため校舎が全壊に等しい状態となりとても危険な状況で授業が行われていました。さらに同校は、首都カトマンズからの道のりがほぼ全域において未舗装で崖沿いの道幅が狭く落石、斜面崩壊、路肩崩壊のおそれもある険しく危険な道路しかなく支援活動がとても困難な地域でした。

2019 年の当法人による新校舎建設支援事業が呼び水となり道路も整備され始め 2025 年には在ネパール日本大使館が同校に女子寮を寄贈されました。支援の輪の広がりを実感することができる活動となりました。



2015 年のネパール大地震のため破壊された旧校舎と危険な状況での授業の様子



2019 年に当法人による支援によって完成した新校舎 開校式の様子

【ネパールの山岳地域にある公立学校教育環境の改善支援の必要性】

ネパールは、内陸国で地理的に貿易による産業が発展しづらい環境となっています。

そのため、外貨を得るための手段として多数の若者が安価な労働力として他国へ出稼ぎに行きます。

また、出稼ぎ先においてパスポートを取り上げられ訓練もされずいきなり危険な作業を強いられている若者も存在しています。さらに、児童労働や児童婚、悪質なブローカーによる人身売買など子どもの人権を侵害する行為も行われています。

これらの問題の要因には、貧困ゆえに次世代においても貧困になってしまうという貧困の連鎖の問題があり、貧困の連鎖を止めるためには質の高い教育を子どもたちに提供することが必要であると考えます。

ネパールの全ての子どもたちに質の高い教育を行うことができれば、国内に新たな産業が創出され、安価な労働力としての出稼ぎ労働者も減少し、児童労働などの問題の解消につながるものと思います。

そのためにも、新校舎の建設やE-ライブラリの開設など教育環境の整備が必要であると思います。

- 国際交流事業

【3校の E-ライブラリ開館式】

E-ライブラリ開設支援等の協力事業に伴って、前期に完成したナラヤンシタン・ベーシック学校（カブレパランチョーク郡パンチカール市7区）、当期に完成したナンダ・デビ・ベーシック学校及びジャナ・ジョティ・セカンダリ学校の公立学校3校のE-ライブラリの開館式に支援者の方々と共に出席しました。



ナラヤンシタン・ベーシック学校 E-ライブラリ開館式の様子



ナンダ・デビ・ベーシック学校 E-ライブラリ開館式の様子



ジャナ・ジョティ・セカンダリ学校 E-ライブラリ開館式の様子

当法人では、コロナ禍を除いて「途上国における教育環境の改善を図るための校舎建設等の協力事業」において建設された校舎及びE-ライブラリが完成する度に現地に赴いて開校式、開館式に参加し日本とネパールとの友好を深めるための国際交流活動を行っています。

開館式においては、各学校において、子どもたちによる民族音楽での歌や踊り、校長や生徒の感謝の言葉、市長等の来賓者の挨拶など地域を上げての歓迎を受けました。子どもたちや教師たちからの感謝の言葉やもてなしから、E-ライブラリに対する期待の大きさを感じました。

また、カブレパランチョーク郡において当法人が行っている新校舎等の建設支援は、その活動がきっかけとなり、当地において他国からも同様の支援が行われ始めています。

【デュリケル市長への表敬訪問】



デュリケル市長への表敬訪問の様子

カブレパランチョーク郡での当法人の「教育環境の改善を図るための校舎建設等の協力事業」の実績において、同郡内のデュリケル市長よりご招待いただき表敬訪問を致しました。

同市長は、これまでの当法人の活動についての感謝の意を表明されました。E-ライブラリのこと、ネパールと日本の文化のこと、また将来の展望などについて話し合い、終始和やかに相互の交流を深めました。

令和4年の同郡のパンチカール市長のご来訪に続き、2度目のネパール要人との会談を通じて同支援事業が日本とネパールの友好を深めていること、ネパールの教育課題においても大きな役割を果たしていることを感じることができました。

● 「困難な状況にある子どもたち等に対する教育、保健等の支援事業」

■ HIV 感染者を家族に持つ子どもたち（里子）への就学支援

当法人では、タイにおいて、HIV 感染者を家族に持つ子どもたちを里子として、1996 年より就学のための支援活動を継続して行なっています。

また、子どもたちとの手紙やプレゼントをなどによる交流を通して友好を深めています。当期においても、里子たちへの就学支援を行いました。

タイでは、所得や資産の分配における「不平等さ」を数値で表す指標であるジニ係数が約 0.43 前後と高水準で、バンコクなど都市部と東北・北部農村との地域格差、富裕層と低所得層の所得・資産格差が依然として大

きく、貧困率は長期的には低下しつつも近年は景気の減速やコロナ後の回復の偏りで再拡大が懸念されています。

里子たちのほとんどの家庭は、日雇い労働で生計を立ており、収入が少なく仕事の有無も不安定で生活がとても苦しい状況となっています。中にはタイの国籍がなく将来に対する不安を抱えている家庭、親が病気で子どもが介護している家庭などの多くの問題を抱えています。しかし、里子たちはそれらの苦勞を抱えながらも学校に通い、家族を助けて懸命に日々を暮らしています。

HIV 感染者を持つ家庭は、概して貧しく、精神的にも疲れており、経済的に子どもを学校に通わせることが困難な状況である場合が多く、そのためそれらの子どもたちは、未来に希望を持つことができない状況となっています。また、その状況は貧困層の固定化につながり次世代においても貧困の連鎖が続く原因となっています。

当法人では、貧困の連鎖を解消し困難な状況にある子どもたちに就学支援を行って子どもたちの未来が明るく開かれたものになるように継続して支えていきたいと思っています。



里子からの手紙

- 海外におけるその他の教育支援及び保健支援

- ネパールのカウンターパートを通してのマスク等の配付による保健支援



マスク配布の様子

当法人では、コロナ禍よりマスクを必要とする人に無料でマスクを配付する「マスクバンク」プロジェクトを行っています。日本国内においては、マスクの供給不足は解消しましたが、ネパールにおいては、感染症の予防、乾季における砂ほこり対策としてマスクは必要不可欠なものとなっています。しかし、山間部の村では、経済的な問題、流通の問題等から慢性的にマスク不足の状態となっています。当期においてもチョウタリィでは、現地のカウンターパートを通してマスクを配付し、山岳部の小学校や JICA ネパールでのイベントにおいて配布されました。

- 子ども育成支援

- 「きら星ごはん宅食」プロジェクト

奈良市内の地域における宅食プロジェクト（子ども見守り支援事業）の 5 期目となりました。

当プロジェクトでは、主に一人親家庭にお弁当、お菓子、果物などを毎月 1 回ないし 2 回お届けし、利用家庭の生活状況や体調を見守ることを目的としています。

直近の公表されているデータによると国内の一人親家庭の 44.5%が相対的貧困の状態となっています。経済的な問題だけではなく一人で子育て等の悩みを抱えてしまい、精神的にも大きな負担を感じてしまうこともあります。

また、子どもの塾や習い事などの教育機会の制約、食生活や住環境の悪化などから子どもの健康や成長においての懸念が生じることも有り得ます。

一人親家庭においては、親本人が病気になったり、育児不安になったりした場合、自分から役所に相談に行くことが難しくなり、育児を行う

事ができず子どもの生命にも関わる問題となってしまいます。そのため、宅食を通しての見守りはとても重要な役割を果たすものと思います。

奈良市の方針により当期から宅食支援に対する補助が打ち切りになりましたが、当法人では、前期において引き続き支援が必要と思われる家庭や新たに外国籍の児童を持つ一人親家庭に対しても、「きら星ごはん宅食」として見守り支援を行いました。

当法人では、宅食支援を通じて決して孤立孤独にさせない社会の実現を目指していきたいと思います。



元氣
きら星ごはん宅食の様子

■ 「子ども図書カフェ」プロジェクト

前期の「元気子どもカフェ」に引き続き子どもの居場所支援として「子ども図書カフェ」プロジェクトを行いました。

現在、子どもたちを取り巻く社会では、いじめ、不登校、児童虐待、ネグレクト、ヤングケアラー、子どもの貧困などの問題があり、そ



子ども図書カフェの様子



子ども図書カフェでのクリスマス会の様子

のどれもが深刻な問題であると認識しております。文部科学省は、現在の子どもたちは、基本的な生活習慣が乱れ、さらに他者への思いやる心、規範意識、生命や人権を尊重する心、人間関係を形成する力などが低下傾向にあると指摘しています。

当法人は、これらの問題を解消するために読書に力点を置いた居場所が必要であると考えました。

読書は、ただ単に知識を詰め込むだけのものではなく、本を読むことを通して自分の知らない世界に触れ、様々な考え方、気持ち、価値観を知ることができ、想像力、思考力、文書力、コミュニケーション能力などの個人の教養と感性を高めることができ、子どもたちの人格形成においても意味のあるものと思います。

「子ども図書カフェ」では、ニッセイ財団からの助成や支援者からのご寄附などにより蔵書を増やし、月4回開催し、絵本、紙芝居の読み聞かせやお菓子等の提供も行い、図書を中心とした子どもたちの居場所空間を作りました。

● 「機関紙、刊行物、講演、展示会、映像上映等による広報及び啓発事業」

■ 講演活動

当期においても大阪市内で支援者向けの講演を行ないました。人々に当法人の活動を知って頂くことができました。

■ 機関誌等の発行

当期においても、「チョウタリ通信」ニュースレター「チョウタリィ」を発行し、支援者や一般の人々に配布しました。

● 「関連団体及び関係する国際機関との相互協力」

国際ソロプチミスト奈良主催のバザー及び奈良市ボランティアインフォメーションセンター主催の「はぐはぐ祭り 2026」に出展しました。

多くの人々に当法人の活動を紹介することができました。



国際ソロプチミスト奈良バザー



はぐはぐ祭り 2026

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
困難な状況にある子どもたち等に対する教育、保健等の支援事業	タイにおいて HIV に感染している家族を持つ子どもたちへの就学支援を行った。	通年	タイ バンコク ムクダハン 県、 バンガー県	2 名	HIV 感染者を家族に持つ子どもたち 10 人	4 8 3
	インドのスラム地区のフリースクール運営支援のあり方等について現地と協議した。	8 月	インド 西ベンガル州 コルカタ	1 名	スラム地区で暮らす子ども等多数	9 6
	ネパールにおいてカウンターパートを通して公立学校等に保健支援としてマスク等を配付した。	4 月	ネパール カトマンズ	2 名	当該地域の公立学校の生徒、教師、住民等多数	1 2 6
	子ども育成支援において「きら星ごはん宅食」として一人親家庭等にお弁当やお菓子等の配付を行うことにより利用家庭の見守り支援を行った。また「子ども図書カフェ」として子どもたちに、図書を通して情操教育を行い、お菓子等も提供して安全で楽しい居場所支援を行った。	通年	奈良市	6 名	奈良市が支援を必要とした家庭の親子 60 人 孤立孤独を感じる子ども 25 人	1 4 6 2
途上国等における教育環境の改善を図るための校舎建設等の協力事業	ネパールにおいて、前期より引き続き 2 校の E-ライブラリ開設支援を行い完成した。当期より新たに 2 校の E-ライブラリ開設支援を開始した。	通年	ネパール カブレパラン チョーク郡 バネパ市	3 名	図書館及び校舎建設地域の子どもたち、住民、教師等	8 4 5 2
途上国等における養護施設、助産施設、医療施設等の環境改善を図るための協力事業	インドネシアにおいて経済的に貧しい人たちに対して無料で助産行為を行っている助産院への支援	今年度は実施せず				

地球環境問題解決のための緑化推進活動等による環境保全事業	地域における緑化運動推進のためのローズマリー等の苗木作り及び植樹活動を行った。	通年	奈良市	2名	地域住民等	25
HIV及びAIDSの予防を目的とした啓発事業	タイのムクダハン県等におけるエイズ予防セミナーの実施	今年度は実施せず				
HIV及びAIDS感染者の人権を擁護するための事業	タイのバンコク等におけるエイズ患者の家族に心穏やかに安心して暮らせる住居の提供及びエイズ患者家族に対する生活支援	今年度は実施せず				
途上国等における自立を目指す人々への協力事業	自立を目指す人々の製品の技術等の支援及び日本国内での製品の紹介等	11月 3月	奈良市	3名	フィリピンの貧困家庭の女性	141
国際協力及び海外事情の調査研究に関する事業	国際社会における貧困、格差、紛争、地球環境等の諸問題における調査及び研究活動	今年度は実施せず				
機関紙、刊行物、講演、展示会、ウェブサイト、映像上映等による広報及び啓発事業	支援団体において事業活動等についての講演を行った。	8月 9月 10月	大阪市	5名	支援者 約500人	68
	機関紙「チョウタリイ通信」ニュースレター「チョウタリイ」を作成した。	6月	奈良市	2名	不特定多数	117
社会教育及び政策提言事業	ボランティア講座の開催	今年度は実施せず				
関連団体及び関係する国際機関との相互協力	奈良市ボランティアインフォメーションセンター主催の「はぐはぐ祭り」、国際ソロプチミスト奈良主催のバザーに出展した。	11月 3月	奈良市	3名	来場者等多数	41
災害復興協力事業	サラスワティ・ベシツク学校（ネパール）の復旧のための協議を現地カウンターパートと行なった。 奈良防災プラットフォーム	4月 2月	奈良市	2名	当該被災学校の生徒、教師、周辺住民 多数	28

	ーム連絡会主催の「令和 7年度災害時における 多様な主体間による連 携を進める奈良フォー ラム」に参加した。					
国内外の伝統文化 等の紹介及び国 際交流に関する 事業	ネパールにおいて公立 学校3校の E-ライブラ リの開館式を行なった。	4月	ネパール カブレパラン チョーク郡 パンチカール 市 バネパ市	5名	当 該 E-ラ イブラリ開 設学校3校 の生徒、教 師、周辺住 民等 多数	787

(2) その他の事業

定款の事業名	事 業 内 容	実施日時	実施場所	従 事 者 の人数	支出額 (千円)
イベント開催事業	手工芸作家等による作品展の 開催	今年度は 実施せず			
文化教育事業	手芸、音楽等の文化教室事業	今年度は 実施せず			

* 報告書の金額表示は、原則として単位未満の端数処理を四捨五入で表示しているため、表中の金額と内訳の合計が一致しない場合があります。